

▶開催あいさつ（学園長）

令和2年度は感染対策に追われて今回が第1回の開催となる。この1年は呆然としている間にあつという間に1年が終わろうとしている。令和元年度の卒業式、2年度の入学式は行えなかったが、2年度の卒業式は対策を行い開催できた。学生からは感謝の言葉が上がっていた。令和3年度の入学式は、保護者と新入生のみで4月9日に行う予定。

この1年、合言葉は「学校にコロナを入れない、うつさない、うつらない」をスローガンとして、守ってきた。本日も活発なご審議をお願い致します。

▶本日の流れ（近藤）

▶委員の紹介（出塚）

外部委員の出席者・欠席者、学校側

▶製菓科説明（鈴木）

この1年は、コロナ禍という事でスタートが例年通り取れず、そんな中でも新しい取り組みを手探りながらもできた。一歩前進。一つはオンライン授業。学生全員にアカウントを作り授業ができるように。自宅でもできるところを動画にとり録画配信したり、生配信でも見ってもらう。録画は何度も見れるため、手元をアップにしたところを繰り返し見れるという事で「分かりやすい」と学生の声があった。春休みにも復習・予習で動画を配信している。来年度はウィズコロナということで、Eコマースも視野に入れて行っていきたい。また、販売実践にも力を入れていきたい。バンドウズの授業をおこなっているのでも、それを活用できるようなもの。現場に近い、原価計算や製品表示についても行っていきたい。

▶製菓の意見

（渡辺龍太委員）

オンラインを早く取り入れたのは良かった。この1年で分かってきたこともあったと思うので、感染対策をしつつしっかり授業をしてほしい。現場で「コロナ禍で学校に行ってきた子は全然ダメだったね」と言われぬように。また、SNSやネットショッピングの需要が急激に伸びている。リテラシーも教えていかないと、個人情報を発信してしまう恐れもあるため、責任も同時に教えて行けたらよいのではないか。

(古川委員)

Eコマースの活用、、全国のおかし屋さんに参加希望のアンケートを取り、集計して準備をしているところ。

▶調理科説明(紫竹部長)

昨年1年間、コロナ禍でも行ってきたのは、1つはソーシャルディスタンスを保ちながらの食育活動。三川の田んぼや月潟、五十嵐のヨモギ畑へ。米は豊作だった。2つ目は2学年学生レストラン。お弁当でテイクアウトの販売を行った。学生の成長がわかった。12月のクリスマスマーケット、3月の学園祭は良い経験になった。

来年度の予定は食育活動、学生生レストラン、講習会や現地見学、現場のシェフによる実習。現地見学会はコロナの状況にもよるが行っていきたい。コンクールは大きな目玉。今年は東京を舞台に行う予定。学生に声をかけてぜひ挑戦していかれたらと思っている。

▶調理の意見

(三島委員)

えぶろんの製菓の学生は「計量」の抵抗感がない。調理は目分量ではやるが、レシピに基づいて料理はできている。目分量でできている料理はない。レシピに忠実にできるのは製菓の学生。レシピで原価も計算できているのだが調理ではそれが出せていない。「えぶろんの卒業生はここがちがう」というのを指導していくのが良い。学生に徹底していくのが必要になってくる。学校において「農産加工」というもの、特に最近は「発酵食品」が非常に普及しており、如何にして品質を劣化させないで維持し、長期保存できるかが大切。「農産加工」の知識があるというだけでも非常に有利になるのではないか。まずは計量に対する徹底、いかに長期保存することができるか。クラブ活動のようなシステムを作るのも良いのではないか。

(村松委員)

和食をやっている人づくりが一番大切なのは、「礼に始まって礼に終わる」そして、ことというのは「成すにあり」といって、これが基本。坂本龍馬の言葉。基本が大切。人それぞれみんな違う、いいところもみんな違う。引き出し方もそれぞれ。日本は言葉の国。言霊の国。言葉が大事、話し方、いい方も大切。怒って指導する学校や企業は今はない。丁寧は丁寧な料理を生む。それが私の信念。国から言われた指導もそうだが、ちゃんと守った人がこのコロナにも打ち勝つ。自分のできる事をやる。信念を持った行動が皆さんに伝わればいいなと思っている。

▶保育科説明(堀部長)

今年度の授業を振り返って、できる授業をオンラインで行い、演習の授業は振り替えて学校に来てから行った。6月から登校し、感染対策を徹底して呼びかけた。その結果学生の中で

感染者は出なかった。音楽の授業では口を開かずハミングで行ったり工夫を凝らした。大学生の声を聴くと、1年間オンラインだったという学校もあり、本校では感染対策を行いながら登校できたのは良かった。保育実習は1月に延期になり、巡回指導では、園によっては電話対応のところもあったが、直接訪問したことで現場の状況も分かった。こども達を充実させて自分たちは感染しないようにすることは大変だと感じた。2年生の実習は1ヶ月という事もあり体調を崩すこともあった。この頑張りが成果として現れたのは3月の学園祭。オペレッタは素晴らしく、集大成を全校生徒に見ていただけたことで、学生にとってはかけがえのない思い出となった。

▶保育の意見

(瀧澤委員)

来年度の4月からは小学校1年生から1人1台のタブレットの授業が始まる。オンラインの授業が浸透していくのではないか。保育の仕事もIC化して、パソコンでやっている園も増えてくると予想される。そういったことから、実習の準備や記録が大変だが負担にならないような方法が構築されていけばと思う。コロナ禍において、職員が持ち込まないというところが大きい。マスクの着け方や消毒の仕方、指導を受けているところもある。衛生管理が大切になってくる。口元が見えない分、どう子どもたちに感情表現をするか。

(紅谷委員)

内部進学や就職が決まったのは、先生方のご苦勞が実ったのではないか。内部進学で調理の知識を持った保育士が現場に出てくるのは心強い。こどもなりに「コロナは異常」といのは感じている。各公立保育園の水道代を見ると、前年に比べて倍になっている。子どもは手洗い・うがいをしっかり実践している。

▶全体質疑・意見

(渡辺龍太委員)

関東関西一部のホテルでは、研修はPCRや抗原検査で陰性でないと受け入れないというところもある。検査をやらなくてはいけない部分も出てくるが、助成金などで行うことはあるのか。

(古川委員)

PCRを受けるのは各企業個々の対応となっており、工業組合でまとめてというのはやっていない。ただ店によっては定期的にやっているところもある。

(村松委員)

一歩ではPCR検査をしている。決めたことを守ることが一番大切。安心していただけるよ

うな ステッカーみたいなものを貼っていただけたらいいのではないか。

(紅谷委員)

行っていない。自治体は特にないので、個々の園によって。休業補償で、職員の有休を使わずに。園に持ち込まないという事を重視している。

次回開催について(近藤)

コロナ禍 2年度第2回と3年度第1回を合わせて6~7月に行いたい。

閉会の挨拶(理事長)

コロナは2~3年も続くかもしれない。できることはやろう。ともかくコロナ禍でも生き抜いていける組織作りをする。委員会でみんなで知恵を出し合いながら意見交換をして有意義な委員会になるようお願いしたい。